

久米島における先住者・移住者の居住満足度に対する意識の違いに関する考察

Consideration about the difference in consciousness for the residence satisfaction of an ex-chief priest person, the immigrant in Kumejima

○林廉太郎¹, 小木曾裕², 山崎晋², 小國敬太¹*Rentaro Hayashi¹, Yutaka Kogiso², Shin Yamazaki², Keita Oguni¹

Abstract: Analyze difference between ex-chief priest person and consciousness of the immigrant of the inhabitants of the island and clarify the present conditions of the island and am intended that I consider the policy that the Okinawa prefectural office performs now for Kumejima.

1. はじめに

現在, 2018 年の日本の島の数は 6, 852 島¹⁾あり, 内 1 割の島が有人島である. その中の 250 島余りが居住者の生活を支える観光業や基盤整備を支援する「離島支援法」などの法律が施行されている. そのような中, 島離れによる少子高齢化問題, 過疎化が進んでいるのが今の島の現状である. 本研究では, このような背景を踏まえ, 沖縄諸島の内一番の人口(約 8, 000 人)と面積(約 63 km²)を誇る久米島(図 1)を事例とし, 島の住民の先住者と移住者の意識の違いを分析し, 島の現状を明かにし, 沖縄県庁²⁾が久米島に対して現在取り組んでいる政策もあわせて考察することを目的とした.

2. 研究方法

本研究では, 沖縄諸島に属する島である久米島の住民を対象として, 2017 年 8 月 7 日から 5 日間にわたり, ヒアリング調査を実施した. そこで調査を確実にを行うために島の調査の経験豊富な久米島ホテルの会³⁾の調査に同行し, 島でのヒアリング調査の指導を得た. 島でのヒアリング調査は紹介方式で島民の方から次の方へと紹介をしていただく方法が良いとのアドバイスであった. その方法でヒアリングを実施した. ヒアリングシートに対面で聞き取り記入した上で集計し, 結果を分析した. 更に 2018 年 9 月に沖縄県庁に, 久米島における独自の政策の取り組みについてヒアリング調査を実施した.

3. 結果と考察

(1) 属性

回収数は 73 枚, 性別は男女比 6 : 4, 年齢構成は 20・50・60・70 歳代が 20%を下まわったが, 30・40 歳代は全て 20%以上であり, 概ね全世代の意見を集約できた. また, 居住概要として先住者が 52%, 移住者が 48%と概ね半数であった.

(2) 他県から移住してきた意識

移住者の中から移住した理由を認識した. その結果 41%の人が「沖縄本島」から移住しており, 続いて「近畿・関西地方」は 19%, 「関東地方」は 13%, 「海外」「九州地方」共に 9%, であった. 次に移住した理由について確認した. その結果として様々な理由が挙げられた中「仕事」が半数を占めていた. その上, 観光と仕事の両面の位置付けとされる「リゾートバイト」が半数を占めていた. 沖縄諸島を始め比較的人口の多い島は, リゾートバイトという形での雇用形態があり, 学生から気軽に島に入る事ができるためにこのような結果となったと考えられる. 続いて多かったのが, 「知人からの紹介」や「観光」といった答えが多かった. 島という閉鎖的空間に新たに移住するにはある程度, 人を介した方が移住しやすいと考えられる.

(3) 島の住民が抱く久米島の魅力

島の住民に久米島への魅力に対する想いを調査し, 思い描く島の全体像をイメージするために「久米島の魅力は何か」という設問を敢えて設けた. その結果「のんびりできる」が一番多く, 続いて「海」, 「気候」等と自然に関する魅力を述べる住民が多かった. 国内に 3 種類しか生息しておらず, そのうちの 1 種類である水生の久米島ボタルや生息しているキクザトヘビ等, 独自の生態系があり, また海に関しても日本の渚百景に選ばれたイービーチや, 砂浜だけで出来た, はての浜等や豊かな自然が

このような結果となったと考えられる. 島の生活水準が比較的高いため「田舎過ぎず丁度良い」との回答もあった.

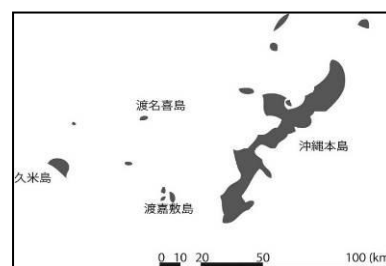


図 1. 久米島の位置図

1 日大理工・学部・まち 2 日大理工・教員・まち

(4)生活して行く上での意識・改善案

島での生活基盤体制は万全であるかという媒体を知るために「生活して行く上での不満・改善してほしい点はあるか」の質問をした。「福祉（病院や介護）の不備」、「居住場所の問題」、「物価の高さ」といった意見が多く、「娯楽施設の欠如」、「交通マナーの遵守」、「気候が不安定」、「地域の人付き合い」の意見があった。しかし、先住者に関しては「生まれも育ちも島であり外に出た事がなく、わからない」といった意見も存在した。

(5)居住者満足度と居住概要の関係性

居住者満足度と居住概要の種類による関係性を見ると、先住者・移住者全ての居住者満足度の評価は「非常に良かった」は32.9%「良かった」は43.8%「あまりそう思わない」は13.7%「そう思わない」は9.6%となった。中でも先住者の肯定的な居住満足度として「非常に良かった・良かった」63.2%に対して、移住者にの居住満足度は91.5%であった（図2）。先住者と移住者に

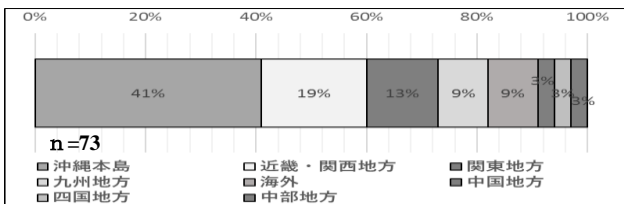


図2. 移住者の前居住地

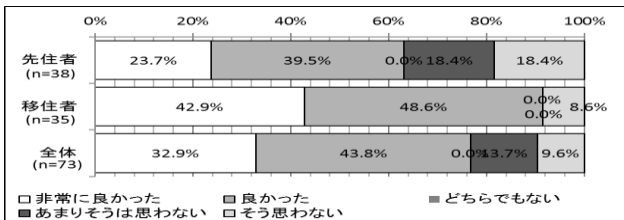


図3. 居住概要と居住者満足度

表1. 主な要望・改善点

項目	主な具体内容
福祉の不備 (24人)	・施設が足りない(先住者・30代男性) ・人手が足りない(移住者・20代女性)
人口増加 (20人)	・診療日で分けられるのやめてほしい(移住者・60代女性)
居住環境 (9人)	・島離れする若者を減らしたい(先住者・50代女性) ・5~6人家族が借りられる物件のレパトリーが少ない(移住者・40代男性)
物価の高さ(8人)	・野菜が高い(移住者・40代女性)
人付き合い(5人)	・給与を上げてほしい(先住者・30代男性) ・よそ者扱いを受けている(移住者・20代女性)
その他(7人)	・久米島独自の生態系・自然を生かした観光資源を(移住者・30代男性) ・島外に出たことがないからわからない(先住者・80代男性)

表2. 沖縄県庁へのヒアリング結果

質問	沖縄県が久米島に対する福祉の独自政策はあるか。
回答	沖縄県として久米島をはじめ様々な離島全体の福祉政策を考えており、その中でも高齢者の保健医療の確保など久米島の現状に対して政策を行っている。
質問	沖縄県として医療・設備に対するの支援は行っているか。
回答	具体例として、公立久米島病院に毎年三億円ずつ投資して運営を行っている。
質問	これから行っていくと考えている政策はありますか。
回答	食生活改善事業・健康・ボランティアの育成・健康づくり運動など久米島にまだ充分に行なえていない問題を継続して行っていく。

ついてそれぞれ比較して考察すると、先住者は「生活して行く上での意識・改善」における設問にて、「福祉の不備」、「居住場所の問題」、「物価の高さ」、「地域の人付き合い」等、居住歴が長いほど募る否定的意見が多かったために、居住満足度の数値に表れている。また、移住者は仕事で来島する半数が、リゾートバイトなど自らの意志で来るケースが多く、何らかの魅力を各々で見つけ、観光・紹介などの位置付けで内情を把握したうえで来島しているために居住満足度における差があると考えられる。だが、移住者に関しては居住歴による居住満足度の差異は見られなかった。

(6) 将来を見据えた島設計

「これからどんな島へとになってほしいか」について質問した。これは、観光・居住・利便性における今までの設問を総合的に加味した内容とした。多かったのは「観光客増加」だった。「生活して行く上での不満・改善」における設問にて、人口の増加からの地場産業の底上げを図らなくては改善されない意見が多数あった。最も多い意見となった。また増加ももちろんだが、全国の島が多く抱えている問題「若者の島離れ」に関しても残って欲しいと強く想いを馳せる方もいた。そして、観光のあり方に関しても、久米島ならではの環境・特産品を生かした観光をして欲しいとのことで、楽天ドームやジブリ「風の帰る森」などの施設については否定的な意見が多かった。

4. 沖縄県庁のヒアリング及びまとめ

今回の調査で先住者と移住者に関して、居住満足度としては移住者の方が高いことがわかり、さらにまた居住歴が長いほど居住満足度が低いことが示唆された。先住者と移住者の満足度における意識の違いを捉えることができ、島の現状を把握することができた。今回の研究で明らかになった福祉の問題について、沖縄県は独自の政策を久米島に行なっている事がわかった（表2）。そして沖縄県の長寿の陰りとして、各自で予防できる健康と食生活⁴⁾を見直す必要と考える。今後はさらなる研究を進めていきたい。

謝辞

本研究では久米島ホテルの会・沖縄県庁をはじめ、アンケートにご協力頂いた方々の協力頂き感謝申し上げます。

5. 参考文献・補注

- [1]総務省統計局 (2017) 日本統計年鑑第 66 回, pp728 (東京)
- [2]ホテルの会: ホテルの棲む環境を蘇らせ、ホテルとホテルに繋がる在来の生きものを保護し私達人間を含めた健全な生態系を保全することを目的に活動している。(HP より)
- [3]沖縄県庁: 地域離島課
- [4]松田伸子 (2007) : 沖縄の久米島の小・中・高生親子における健康と食生活のライフスタイルについて: 女子栄養大学 pp29・pp30